

## 領域 6 合同インフォーマルミーティング議事録

日本物理学会第 81 回年次大会

2026 年 9 月 16 日(水) 17:30-18:17 A162

参加者：43 名

司会：竹内（領域運営委員）

記録者：那波（領域運営委員）

### 議題

1. 領域代表・副代表について（承認事項）
2. 領域運営委員について（承認事項）
3. 学生優秀発表賞報告
4. 領域委員会報告事項
  - （1）第 81 回年次大会における企画提案の採択
  - （2）領域 6 関連の企画提案の採択件数
  - （3）その他 1：領域再編について（2026.08.18 臨時領域委員会での議論を含む）
  - （4）その他 2：オンライン大会に関するアンケート結果
5. 一般講演発表件数、概要集提出率について
6. 学生優秀発表賞の実施要項の修正について（確認事項）
7. 領域再編についての検討
8. 国際学会等のお知らせ

1. 領域代表・副代表について（承認事項）

次期領域代表・副代表の承認がされた。

- ・次期領域代表（2027 年 4 月 ～ 2028 年 3 月）

田村 隆治（準結晶，東理大先進工）

- ・次期領域副代表（2027 年 4 月 ～ 2028 年 3 月）

野村 竜司（超低温，北大院工）

2. 領域運営委員について（承認事項）

次期以降の領域運営委員についての確認がなされた。

- ・任期継続の現運営領域運営委員（2026/4～2027/3）

那波 和宏（準結晶，東北大）、小森 祥央（超伝導・密度波，阪公大）

- ・次期領域運営委員（2026/10～2027/9）

平山 尚美（液体・非晶質金属、阪大）、谷 智行（超低温、北大院工）

・次次期領域運営委員候補（2027/4～2028/3）について以下の通り提案があり、承認された。

鈴木 慎太郎（準結晶、青山学院大）、深谷 優梨（超伝導・密度波、岡山大）

### 3. 学生優秀発表賞報告（領域 6）

日本物理学会 2026 年春季大会(2026 年 3 月、オンライン)における学生優秀発表賞の受賞者 4 名が、以下の通り報告された。

| 分野          | 受賞者    | 所属         | 講演題目                                            |
|-------------|--------|------------|-------------------------------------------------|
| 準結晶         | 青山 茉喜乙 | 東北大<br>多元研 | Al-Pd-Re-Fe 系合金における新規高次近似結晶の創製                  |
| 超低温         | 隈下 敦貴  | 兵庫県大<br>院理 | 純良グラファイト上ヘリウム 3 単原子膜の整合・不整合相転移領域の相図 II          |
| 超伝導<br>・密度波 | 浅野 舜   | 京大理        | キラル結晶特有の構造相転移理論：カイラルフォノンのソフト化とスピン選択的 Peierls 転移 |
| 液体金属        | 村山 大輔  | 阪大院工       | 高温高压のアンモニアボランの分子乖離に伴う BN 重合反応                   |

### 4. 領域委員会報告事項

領域委員会での招待講演企画提案を含めた以下の件について代表より報告があった。

#### （1）第 81 回年次大会における企画提案の採択

物性領域プログラム小委員会で審議決定された以下の採否が報告された。

- ・招待講演: 6 件採択、0 件不採択
- ・企画講演: 1 件採択、0 件不採択
- ・チュートリアル講演: 4 件採択、0 件不採択
- ・米沢受賞記念講演: 2 件採択、0 件不採択
- ・AAPS-JPS Award 受賞記念講演: 2 件採択、0 件不採択
- ・シンポジウム(一般): 12 件採択（1 件は提案者が講演者を兼ねないという条件つき）、0 件不採択
- ・シンポジウム(共催): 5 件採択、0 件不採択

#### （2）領域 6 関連の企画提案の採択件数

領域 6 主領域

- ・招待講演 2 件：領域 6，領域 8，領域 1，領域 11，領域 12
- ・企画講演 1 件：領域 6，計算物理領域，領域 5，領域 8，領域 11
- ・シンポジウム(共催) 1 件：領域 6，計算物理，領域 5，領域 8，領域 11

領域 6 合同

- ・招待講演 1 件：領域 8，計算物理領域，領域 6

- ・チュートリアル講演 2 件：領域 12, 領域 6, 領域 8, 領域 10, 領域 9
- ・シンポジウム(一般) 6 件：領域 3, 領域 4, 領域 5, 領域 6, 領域 7, 領域 8, 領域 9, 計算物理, 素粒子論領域, 宇宙線・宇宙物理, 領域横断
- ・シンポジウム(共催) 2 件：領域 4, 計算物理領域, 領域 3, 領域 5, 領域 6, 領域 7, 領域 8, 領域 9

### (3) その他 1：領域再編について (2026.08.18 臨時領域委員会での議論を含む)

#### ・領域再編の背景

領域制は、大会資源(発表機会など)の公平化のため、約 25 年前に始まり、5 年ぐらいごとに見直しをするとのことであったが、未検討のままであった。領域の大きさの差が拡大した結果、領域によっては運営委員の成り手不足や発表件数の応募人数の不足など領域運営上の問題が深刻になりつつある。そこで、「領域のあり方を検討する WG」でプログラム・ユニット案を検討することになった。

#### ・基本方針

第一段階：「プログラム・ユニット」というコンセプトを導入・作成←本 IM で検討

第二段階：プログラム・ユニットを組み合わせる物性分野全体を再編←WG にて

各領域の規模が同程度となるように再編

### (4) その他 2：オンライン大会に関するアンケート結果

1. 2026 年春季大会から新たに導入したポスターセッションのショートプレゼンについて、実施した領域からのコメントや懸念点がまとめられた。

・ショートプレゼンの案内が足りていなかったため開催方式が関係者にしか浸透していなかった印象。

・ショートプレゼンの画面共有に手間取って時間ロスが生じていた。

・一方で、各登壇者の発表資料を事前に収集し、円滑にセッションを進行できた領域もあった。

・2 時間枠のうち 30 分をショートプレゼンに使用したため、講演・審査時間が減ってしまった。

・1 セッション当たりの件数を 30 件から減らしてはどうか。

・口頭発表と平行で開催しているためショートプレゼンの時間にピンポイントで聴講できなかった。

### 2. オンライン大会全体について

オンライン上での議論の限界や参加者減少などの危機感に関するコメントがある一方で、一定数のオンライン支持者もいるため、多面的な事情を考慮しながら、まずは参加者減少に少しでも歯止めをかけられるように、オンライン大会独自の良さを追求していく。

(回答例)

- ・オンラインでポスターはやりにくい。
- ・オンラインの魅力が見いだせない（海外では対面が増）。
- ・学会は年1回開催でもよいと思っている人が、2回の内1回はオンラインでもよいと思っている。

#### 5. 一般講演発表件数、概要集提出率について

- ・一般講演の発表件数の推移および講演概要提出率について報告があった。発表件数は前回の年次大会よりは多く、前々回の年次大会と同程度。オンライン開催の春季大会との相違が顕著である。
- ・講演概要提出率については、領域 6 で 97.4%と高水準であることが報告された。

#### 6. 学生優秀発表賞の実施要項の修正について（確認事項）

- ・2026 春季大会のインフォーマルミーティングで承認された改定案に関する確認。
- ・次回の 2027 春季大会から施行することが確認された。

#### 7. 領域再編についての検討

- ・プログラム・ユニットと再編後の領域イメージ

##### 第1段階（プログラム・ユニットの確定）

プログラム・ユニットの大きさは問われないが、現在の単位より小さいもの、一人運営委員を出せるくらいの単位を目指す。

##### 第2段階（プログラム・ユニットを組み合わせる領域再編）

最終的に同程度の規模の領域に再編される。ただし、具体的な編成案の決め方は今後 WG で議論される。領域再編した結果、領域によっては今までと変わらない可能性もある。早く試行したいとの意向から、各領域で本 IM においてプログラム・ユニット案の検討を依頼されている。

WG より提案された領域 6 に関係するプログラム・ユニット内における素案

| 分野   | 現領域     | 主要キーワード       | プログラム・ユニット名 |
|------|---------|---------------|-------------|
| 準結晶  | 6       |               | 準結晶         |
| 液体金属 | 6       | 液体金属、非晶質金属    | 液体金属        |
| 超低温  | 6       | 超流動、量子流体、量子固体 | 超低温         |
| 超伝導  | 6,7,8   | 低温、超伝導、密度波    | 超伝導         |
| ガラス  | 11,12,6 |               | ガラス         |

領域 6 の IM の議論の後の素案（ガラス分野の議論は行っていない）

| 分野       | 現領域   | 主要キーワード           | プログラム・ユニット名 |
|----------|-------|-------------------|-------------|
| 準結晶      | 6     | 準結晶、近似結晶          | 準結晶         |
| 液体・非晶質金属 | 6     | 液体金属、非晶質金属        | 液体・非晶質金属    |
| 超低温      | 6     | 超低温、超流動、量子流体、量子固体 | 量子流体・固体     |
| 超伝導      | 6,7,8 | 超伝導、密度波           | 超伝導         |

領域 6 内における提案

・液体金属分野は既に分野名が液体・非晶質金属分野に変更されているため、これをそのままプログラム・ユニット名とする。

・北大の野村先生より、超低温分野のプログラム・ユニット名を「量子流体・固体」とする提案がなされた。このような名前にすることで乱流の研究等も含める形とすることができる。超低温は逆にキーワードに含める形とするのはどうか。

・点（・）を含めるか含めないか？「量子」が「固体」にかからないのではないか？

参考意見として、液体・非晶質金属分野における点（・）はどのように解釈されてもよいという前提の上で点が付けられていることが述べられた。

→多数決により点を打つことで承認された。

・準結晶分野運営委員の那波より、準結晶分野はユニットとしてまとまっており、プログラム・ユニット名は準結晶を踏襲するのがよいのではないかという分野内の意見を述べた。主要キーワードが空欄なのは良くないので、準結晶や近似結晶はどうか。

・主要キーワードはあくまで再編のためのキーワードである。このため、重なるのは良くないが、意図的に重ねて同じ領域に編成する作戦は考えられる。

・超伝導のキーワードから低温を除く提案がなされた（超低温と重なる）。

・ガラス分野も量子流体のキーワードが重なるかもしれない。

上記の議論からプログラム・ユニットに関する素案が一旦形成された。

その他質問事項

・計算物理領域の再編はあるのか？

→ない。今回の再編は領域 1 – 1 3 のみ。

・若手奨励賞はどのように運用するのか？ユニットごとに一人になるのか？そうだとすると領域再編後にその価値の継続性が失われるのではないか？

→領域 6 の各分野がほぼユニットとなるので、各分野から候補者を出すという観点からはある程度継続性はある。しかし完全に不公平をなくすのは難しいと思われる。

・プログラム・ユニットの現該当領域も決める必要があるか？

→ない。

## 8. 国際会議等のお知らせ

・山口大学の家永先生より第 32 回渦糸物理ワークショップ(11/24-11/26)の開催案内がなされた（超伝導・密度波）。

・大阪公立大の竹内先生より、Quantum Fluid Mechanics2026（9/28-29）の開催案内がなされた（超低温）。